



◆海外市場調査の Web サイト『グローバルマーティンラボ』を新設しました

<http://www.global-marketing-labo.jp>

近年のマーケティングの対象は国内市場中心からグローバル市場へと広がっております。

弊社では、グローバル市場においても足で稼ぐ生きた情報を収集すべく、充実した社内体制と外部ネットワークを構築し、多数の海外調査を実施しております。

『グローバルマーケティングラボ』では、工業市場研究所の海外調査のメニューの紹介や調査実績、各国情勢コラムを掲載しております。調査実績、海外情勢コラムは随時、更新を行っておりますので、是非、ご覧ください。

海外市場調査にご興味のある方は、TEL:03-6459-0165 又は
<http://www.global-marketing-labo.jp/contact/> までご連絡下さい。

WEEKLY NEWS

◆天然品：ダイセルが米国 Genomatica 社の天然由来の 1,3-BG のアジア太平洋地域におけるマーケティング活動を開始(12月15日)

ダイセルは、Genomatica 社(本社：米国サンディエゴ)が新たに開発し、ICIS Innovation Award の受賞歴のある、天然由来の 1,3-ブチレングリコール(1,3-BG)のアジア太平洋地域におけるマーケティング活動を行うと発表した。

1,3-BG は、保湿性や肌触り、抗菌性を向上させる目的で、パーソナルケア製品に広く用いられており、植物エキス、香料向けの抽出剤としても使用される。Genomatica 社はその安全で持続可能な発酵ベースのプロセス技術を用いて、2017 年半ばから、サンプル品として天然由来の 1,3-BG を数トン製造している。ダイセルはアジア太平洋地域における 1,3-BG の顧客と用途を開拓する。

アジア太平洋地域の化粧品市場は急速に成長しており、オーガニック化粧品の需要の伸び率は、化粧品市場の 2 倍となっている。このマーケティング活動の主な目的は、パーソナルケア市場およびそのほかの市場における、Genomatica 社の天然由来の 1,3-BG の潜在的な顧客を開拓することとしている。

◆電池材料：戸田工業が BASF と e-モビリティ向け電池用正極材料事業の協業を強化(12月14日)

戸田工業と BASF は、アメリカと日本の双方での生産能力の拡充を図ることに

より、e-モビリティ向けのより大きな商機を目指すと発表した。

具体的には、両社最初の共同事業として設立した、戸田工業とBASFジャパンの合弁会社であるBASF 戸田バッテリーマテリアルズ(以下、BTBM)が、小野田事業所でのハイ・ニッケル系正極材料の生産能力を従前の3倍に拡大した。

さらに戸田工業とBASFは、ミシガン州バトルクリーク市およびオハイオ州エリリア市にあるそれぞれの生産拠点を統合、新たにBASFが持分の過半数を保有するBASF Toda America LLC(以下BTA)を設立して、アメリカにおいても協業を開始するとしている。

◆電子材料:ユニチカが有機ELディスプレイ用ポリイミドワニスを開発
(12月13日)

ユニチカは、超フレキシブル化が可能な有機ELディスプレイ(以下、OLED)用ポリイミド(以下、PI)ワニスを新たに開発したことを発表した。

新たに開発したPIワニスは、PIの精密設計技術とワニス化のための配合技術により、ガラス基板と「強固に密着し」かつ「剥離されやすい」という、相反する特性が必要という課題を解決した。

熱硬化を速くしても基材からのハガレや気泡発生が起りにくく、短時間(従来の1/3~1/4)で高品位のPI薄膜を形成することができ、生産性が飛躍的に向上する。また、超フレキシブル化が可能な20 μ mという厚みにしても、PI薄膜の良好な剥離性を確保することができる(従来のOLED用ポリイミド基板の厚みは100 μ m程度)。

現在、開発したPIワニスに関する関連特許は約10件出願済み。すでに海外顧客向けに採用が決定し、間もなく実生産用ワニスの出荷が始まるとしている。

◆繊維:帝人フロンティアがタイにおいて研究開発拠点を開設(12月13日)

帝人フロンティアは、タイにおけるポリエステルを中心とした繊維の研究開発拠点として、帝人フロンティア・タイ・イノベーション研究室(以下、「TFTIL」)を開設すると発表した。

TFTILは、タイ初のポリエステルを中心とした繊維の研究開発拠点で、2018年1月に、タイ国立科学技術開発庁(NSTDA)が管理する民間向けの研究施設であるタイランド・サイエンスパーク内に開設する。

帝人フロンティアは、アジアにおける事業の優位性をさらに強化するため、タイにおける研究開発力の強化を狙ってTFTILを新設し、TFTILでは、ポリエステル繊維の原料であるポリマーの開発を中心に、製糸技術や後加工技術などの研究に取り組む。

TFTIL開設により、ポリエステル繊維生産の基幹拠点であるタイ国内におい

て、原料の研究開発から生産・加工まで一貫での対応が可能になる。また、松山事業所および帝人(中国)商品開発センターとのアジア3極での相互連携や、NSTDAの敷地内に拠点を構えるタイ政府傘下の研究機関などとの連携により、高機能・高品質でコスト優位性の高い製品開発の効率向上も期待できるとしている。

◆フィルム:積水化学工業が自動車向け合わせガラス用中間膜のメキシコ工場第3生産ラインの稼働を開始(12月12日)

積水化学工業の高機能プラスチックカンパニーは、自動車メーカーの中南米市場における生産能力増強に対応すべく、メキシコ工場に3系列目となる合わせガラス用中間膜の生産ラインの増設を進めていたが、今年6月に竣工し、来年1月から本格的に稼働を開始すると発表した。生産能力は第3ライン完成前は自動車300万台分/年であったが、第3ラインが完成したことにより自動車1,000万台分/年となった。

積水化学工業では、自動車生産台数の増加や、自動車1台あたりのガラス面積の拡大に対応して生産能力を増強してきた。特に、車内の快適性向上ニーズに合わせて開発した、遮音中間膜、遮熱中間膜、遮音・遮熱中間膜、そしてヘッドアップディスプレイに対応したくさび形中間膜等の高機能中間膜の需要が増えている。中でも遮音中間膜に関しては、フロントガラスのみならずフロントサイドやルーフ等使用される部位も広がり、順調に販売が拡大している。従来、北米市場は北米工場にて、中南米市場はメキシコ工場にてそれぞれの需要に対応してきたが、米州全体の市場の堅調な成長に対しては主に日本からの輸入にて需要増に対応してきた中で、今般、メキシコ工場の生産能力を引き上げることとなった。

積水化学工業では、新ラインでは、通常製品よりも遮音性を高めた高機能中間膜の生産を主に行っており、メキシコ工場及び北米工場にて米州全体の需要に対応していくとともに、一層の競争力強化を図るとしている。

◆水素関連:11社が水素ステーションの本格整備を目的とした新会社設立に合意し、契約を締結(12月12日)

トヨタ自動車、日産自動車、本田技研工業、JXTGエネルギー、出光興産、岩谷産業、東京ガス、東邦ガス、日本エア・リキード、豊田通商、日本政策投資銀行の計11社は、本年5月より燃料電池自動車(以下、FCV)向け水素ステーションの本格整備を目的とした新たな協業について検討を行い、新会社を2018年春に設立することで合意し、設立に係る契約を締結したことを発表した。

新会社は、水素・燃料電池戦略協議会「水素・燃料電池戦略ロードマップ」

(2016年3月22日付改訂)の官民目標(2020年度までに水素ステーション160箇所の整備、FCVの4万台普及など)を踏まえ、11社を中心にオールジャパンでの協業によりFCV普及初期における水素ステーションの整備を加速させるべく、設立するものとしている。

新会社では、FCV普及初期における水素ステーション事業の諸課題を踏まえ、インフラ事業者、自動車メーカー、金融機関等がそれぞれの役割を果たし、協調することで、FCV需要の最大化が狙える水素ステーションの戦略的な整備と、それを踏まえた着実なFCVの普及、及び水素ステーション事業の自立化を目指すとしている。

◆樹脂：東洋紡がデュポン社から生分解性樹脂の製造を受託(12月12日)

東洋紡は、デュポン社が開発した生分解性樹脂「DuPont APEXA(以下、APEXA)」の製造を受託したことを発表した。東洋紡が開発したアルミニウム系触媒「TOYOBO GS Catalyst」を使用し、2018年より岩国事業所で生産を開始する。

「APEXA」は、デュポン社が開発した生分解性樹脂である。デュポン社が「APEXA」の量産を検討する中、東洋紡の触媒技術や重合技術、樹脂製造設備に注目した。両社は「TOYOBO GS Catalyst」を使用し、ポリエステル構造を持つ「APEXA」の連続重合技術の開発に取り組んできた。

現在、「APEXA」は繊維用途が主流で、日本や欧米を中心にスポーツ衣料やユニフォームなどに採用が進んでいる。今後、デュポン社と共同で「APEXA」のフィルムやシート用途への展開を図り、年産3万トンを目指すとしている。

◆フィルム：デクセリアルズが熱線再帰フィルムを使用した暑さ対策の実測調査結果を公表(12月12日)

デクセリアルズは、横浜市環境科学研究所及びJVCケンウッドと共同で暑さに関わる指標の実測調査を実施し、デクセリアルズのフィルム『アルビード』が屋内外の暑さ対策に有効であることを確認したと発表した。

アルビードは窓ガラスの内側に貼ることで、屋内に侵入する熱線(近赤外線)を上方に返し、屋外の温熱環境の悪化を伴わずに屋内の暑さを和らげる窓用フィルムである。

今回の実測調査では、小学校の教室の教室とグラウンドでの効果を把握するため、①教室内における相当外気温度、日射量、温度など、②グラウンドにおける相当外気温度、日射量、温度など、を平成29年8月23日に測定した。

その結果、従来の遮熱フィルムでは太陽光の近赤外線を下方方向に反射してグラウンドに到達する熱線が増加するのに対して、熱線再帰フィルムでは熱線を

上方に反射することでグラウンドに向かう熱線も低減させる効果があることを定量的に確認できたとしている。

◆価格改定

- ・DIC がエポキシ樹脂およびエポキシ樹脂硬化剤を 1 月 15 日出荷分より値上げ
値上げ幅は、ビスフェノール A 型 : 45 円/kg、ビスフェノール F 型 : 55 円/kg
ノボラック型固形 : 40~55 円/kg、臭素型 : 40 円/kg
フェノール系硬化剤固形 : 40 円/kg、アミン系硬化剤 : 50~100 円/kg
- ・カネカが塩化ビニル樹脂を 1 月 16 日出荷分より値上げ
値上げ幅は、15 円/kg 以上
- ・住友化学がエチレン-酢酸ビニル共重合体エマルジョンを 1 月 1 日納入分より値上げ
値上げ幅は、15 円/kg
- ・出光興産がメチルエチルケトン、ビスフェノール A を 12 月 25 日出荷分より値上げ
値上げ幅は、メチルエチルケトン : 30 円/kg、ビスフェノール A : 25 円/kg 以上
- ・日本軽金属が凝集剤製品を 2 月 1 日出荷分より値上げ
値上げ幅は、ポリ塩化アルミ(PAC) : 5 円/kg 以上
硫酸アルミ(液体バンド) : 3 円/kg 以上
- ・日本軽金属が水酸化アルミニウム製品、アルミナ製品を 1 月 21 日出荷分より値上げ
値上げ幅は、水酸化アルミニウム : 8 円/kg 以上
アルミナ、ローソーダアルミナ、電融アルミナ : 12 円/kg 以上
- ・セメダインが 2 液アクリル系接着剤を 12 月 1 日出荷分より値上げ
値上げ幅は、5~30%(対象製品により異なる)



株式会社 工業市場研究所

TEL: 03-6459-0165 FAX: 03-5408-1584

〒105-0003 東京都港区西新橋 3-6-10 マストライフ西新橋ビル

<http://www.kohken-net.co.jp>

◆メールの設定により、読み難くなる場合がございます。ご容赦ください。

◆配信停止・ご意見・お問い合わせはこちらへ h-ikeda@kohken-net.co.jp

